



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

## 2020.7

No.436

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



## 天上の楽園 池の平湿原 (誌上探鳥会) 菱沼一充(白岡市)

池の平湿原は浅間山西の湯の丸高原と高峰高原にある標高 2,000mの湿原です。湯の丸高原は花の湯の丸と言われているように高山植物の宝庫で、それを目当てに多くの登山客が訪れます。特に池の平湿原の湿生植物群と三方ヶ岳のコマクサは有名です。また、標高 2,000mであるため、高山性の野鳥たちが比較的容易に観察できる最高の探鳥地と思います。

近年、夏の探鳥会は熱中症の心配から開催を控えています。そこで思い立った探鳥地がこの池の平湿原です。標高も高いため、下界の暑さを忘れることができる天上の楽園です。当会では、1996年7月にバス日帰り探鳥会を実施しています。今年、7月に軽井沢発地と合わせて1泊バス探鳥会を計画しましたが、新型コロナウイルス感染防止のため開催を取りやめることになってしまいました。そこで、せめてもと誌上探鳥会を企画しました。どうぞお楽しみください。

### ● 地蔵峠

池の平湿原は湯の丸高原と高峰高原の中間にあるので湯の丸高原地蔵峠または高峰高原車坂峠からのアプローチとなります。チャーターバスで軽井沢発地、浅間サンライン経由で地蔵峠に来ることになります。宿泊は地蔵峠にある湯の丸高原ホテルを予定しています。

地蔵峠は標高 1,730m、ここには湯の丸スキー場があり、群馬県側の旧鹿沢に大学時代のクラブの山小屋があったことからスキーシーズンには良く来ていました。標高が高いためサラサラのパウダースノーです。最近は高地トレーニング場所として注目されています。

ホテル周辺はカラマツの人工林であり野鳥の種類は多くありませんが、カラ類、キツツキ類が見られます。キセキレイは屋根の上や電線で囀っています。また、近くに白窪湿

原という小さな湿原があり、この時季にはアヤメの群落が見られます。湯ノ丸高原はレンゲツツジが有名ですが、この時季は名残が見られるかどうかでしょう。

池の平湿原に向かう林道入口の右側に湯の丸自然学習センターがありますので、事前に植物や動物の情報を入手しておくのが良いと思います。

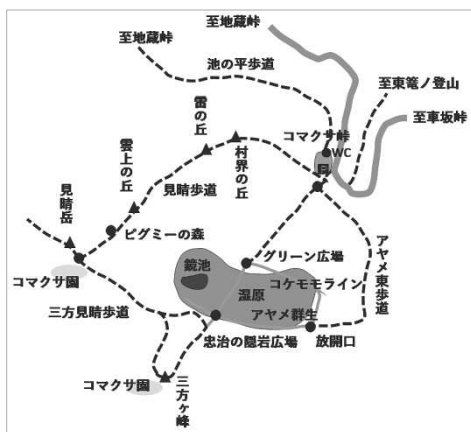
舗装された林道をバスで池の平駐車場へと向かいます。路線バスはありませんが、ハイシーズンはシャトルバスが運行されています。車窓から、カラマツの原生林を見ることができます。軽井沢で見られるような植林されたひよろ長いカラマツではなく、大地にどっしりと根を生やした姿です。

### ● 池の平湿原へ

池の平湿原は数万年前の三方ヶ峰火山の火口原に広がる高層湿原です。池の平の駐車場にバスを駐車して、いよいよ探鳥の開始です。

トイレは駐車場にしかありません。駐車場のある場所はコマクサ峠と呼ばれ、標高 2,060mです。バスで 300m近く上って来たこととなります。

運が良ければ、駐車場付近でホシガラスを見ることができます。ちなみに、地蔵峠ではホシガラスは見ることができません。自然学習センターの人の話では9月頃、幼鳥が下りて来るとのことです。カラマツのてっぺんではビンズイが声高く囀っています。ビンズイ



池の平湿原地図

のことをキヒバリとも言いますが、なるほどヒバリの声に似ています。轉りにズイズイという音節があるのでピンズイと言うとか。

### ● コマクサ峠から雲上の丘へ

コマクサ峠からは三方ヶ峰の外輪山を反時計回りに周回します。最高地点は雲上の丘と呼ばれ、標高2,110mなので、約50mの緩い上りになります。初心者向けのコースですが、途中足場の悪いところもあるので油断大敵です。いきなりの上り道ですが、足元にはさまざまな花が咲き乱れます。

7月初旬ごろ訪れるとツマトリソウ、ゴゼンタチバナ、ハクサンチドリ、シモツケソウ、マイヅルソウ、アヤメなどが見られます。樹木はアズマシャクナゲの終わり、ハクサンシャクナゲは咲き始めというところでしょうか。ピンズイがあちこちの梢で轉っています。遠くから、ホシガラスのだみ声やウソの声が聞こえてきます。

村界の丘に出ると、見晴歩道の名のとおり視界が開けます。外輪山最高峰の雲上の丘からは烏帽子岳、湯ノ丸山、籠ノ登山、水ノ登山、黒斑山、遠くには四阿岳、富士山、北アルプスの山々などなど。浅間山は黒斑山の陰で見ることができません。



池の平湿原と黒斑山

### ● 雲上の丘から三方ヶ峰

最高峰の雲上の丘を過ぎると、ピグミーの森というところに出ます。森の林床はコケに覆われ鬱蒼としています。名前のとおり、小人たちが出て来そうな場所です。

この辺はルリビタキ、メボソムシクイが多い場所です。時々、ルリビタキが梢の頂に出てきて高らかに轉ってくれます。ピグミーの森を抜けると見晴岳と三方ヶ峰の分岐に出ま

すが、左折するとお目当てのコマクサ群落が見えます。かわいらしいピンクの花をつけた姿に心が洗われます。足元にはコケモモやシラタマノキが小さな花をほころばせています。

一度大きく下ると三方ヶ峰と池の平への分岐があるので、疲れた場合はここで湿原に向かいます。三方ヶ峰はその名のとおり三方に視界が開け、眼下に小諸の町が広がります。ここでもコマクサの群落があります。



可憐なコマクサの花

### ● 池の平湿原周回

三方ヶ峰から15分ほど下ると、湿原の南端に出ます。忠治の隠岩広場にて昼食をとってから、鏡池に寄ることにします。

鏡池は湿原にある大きな池塘で、その名のとおり周囲の山々を水面に映し出します。上空を見上げると猛禽やアマツバメが見られるかもしれません。ここから周遊コースを反時計回りに歩きましょう。湿原に点在する灌木にはピンズイ、ルリビタキ、ノビタキなどが轉っています。

周回途中に放開口と呼ばれる場所があります。ここが崩れたことにより、火口にたまった水が流れ出て湿原が形成されたと言われていました。放開口からコケモモラインを通過して、グリーン広場からコマクサ峠へ戻ります。緩い舗装された坂道ですが、歩き疲れた後は長く感じます。両脇はカラマツですが、風雨の影響でかなり樹高が低いです。

この辺りは、ヒガラやコガラが多く歩道のすぐそばで忙しくあたりをつつきまわっています。遠くからカッコウやツツドリの声が聞こえてきます。東屋が見えたらもう少して駐車場です。楽しかった池の平湿原での探鳥も終りとなります。

〈参考図書〉『浅間・軽井沢自然観察ガイド』山と溪谷社

## 野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

### ●ヨーロッパコマドリ

英名 European Robin

学名 *Erithacus rubecula*

分類 スズメ目ヒタキ科ヨーロッパコマドリ  
属



本会会員の関口明宏さんより、2020年3月13日に蓮田市内で撮影したヨーロッパコマドリの写真(上掲)が寄せられました。

本種は『日本鳥類目録改訂第7版』に拠れば、北海道、千葉、奈良、飛島、舩倉島でしか記録されていない迷鳥であり、当会の県内野鳥リストにはない種です。

写真を見る限り、足環等の装着はなく、風切や尾羽の状態にも擦り切れなどは確認できません。また、撮影者の関口さんは「とても警戒心が強い」とも述べられています。しかし本種は、飼い鳥として輸入・販売されている現状もあり、インターネットで検索すると販売業者のサイトがいくつも見つかります。そうしたことから当委員会は、今回の観察事例を、自然迷行による個体なのかいわゆる「籠脱け」個体なのか、安易に判断を下せないとの結論に達し、参考記録に留めることにしました。

本種はヨーロッパ・アフリカ北部からシベリア西部にかけて分布する野鳥で、特に英国では国鳥として親しまれています。

### 《はみ出し行事案内》

#### 新潟県 小千谷市・山本山高原～ 魚沼市・奥只見銀山平探鳥会

期日：9月12日(土)～13日(日)

集合：12日午前6時30分 大宮駅西口または午前7時 川越駅西口の2カ所。

解散：13日午後8時 川越駅西口および午後9時 大宮駅西口の2カ所の予定(高速道路の渋滞等の交通事情による変更有り)。

交通：集合地から貸切バス(28人乗り中型)。

費用：38,000円前後の予定(交通費、宿泊代、2日目の昼食代、保険代、遊覧船乗船代等を含む)。※過不足の場合は当日清算。

定員：10名(応募多数の際は先着順、埼玉会員優先)。募集人数に満たない場合は中止。

申し込み：往復はがきに住所・氏名(ふりがな)・電話番号・性別・生年月日(保険加入に必要)・集合場所が大宮か川越かを明記して、入山博( )まで。

)まで。7月1日消印から有効受付。

担当：入山、近藤、佐野、長谷部

見どころ：もちろん、イヌワシを絶対見たい。

その他 1) 小千谷市山本山高原では、タカの渡り、2) 枝折峠での雲海観察&早朝探鳥、3) 奥只見湖遊覧船での探鳥。

その他：宿泊先 銀山平温泉『湖山荘』。8～10畳の和室で1部屋2名。男女別の相部屋。夫婦・親子での同室可。個室の用意はできません。雨天等で観察地や日程を変更する場合があります。参加者には8月末詳しい案内を発送します。

#### 【注(重要)】

新型コロナウイルスの感染が再拡大した場合は、開催中止とさせていただく場合があります。中止の場合は、申し込みをされた方へ個別にメインリーダーからご連絡を差し上げます。



## 野鳥情報

**さいたま市大宮区 大宮公園** ◇12月16日、カルガモ2、オナガガモ18、キンクロハジロ12、カイツブリ3、キジバト、カワウ2、オオバン3、カワセミ1、コゲラ、キクイタダキ、シジュウカラ、ウグイス2、エナガ多数、メジロ多数、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、ビンズイ4、カワラヒワ、アオジなど。12月24日、カルガモ2、オナガガモ16、キンクロハジロ9、ミコアイサ♀1、カイツブリ2、カワウ1、オオバン4、カワセミ♀1、コゲラ、キクイタダキ4、シジュウカラ、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ハクセキレイ3、セグロセキレイ2、ビンズイ4、カワラヒワ、シメ、アオジ1など。1月3日、オカヨシガモ♂1、カルガモ2、オナガガモ18、キンクロハジロ11、カイツブリ3、ゴイサギ成鳥1、オオバン4、ユリカモメ2、コゲラ、モズ♂1♀1、オナガ5+、シジュウカラ、ウグイス、メジロ多数、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ4、セグロセキレイ2、ビンズイ7、シメなど（森本國夫）。

**さいたま市の鴨川** ◇12月18日、拡幅工事中の学校橋の下流でタヒバリ1。中州を渡り歩いた後、田んぼの方へ飛び去る（大塚順子）。

**蓮田市黒浜 国立東埼玉病院** ◇12月18日、メジロ、コゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ヒガラ、キクイタダキの混群。他にシメ、カケス、ツグミ、アカハラ、シロハラ、ウグイスやルリビタキの声。1月4日、キクイタダキなどを見ていたら急にツミが近くの枝に。じっくり見る（鈴木紀雄）。

**蓮田市黒浜** ◇12月18日、木にとまるノスリにチョウゲンボウ♂が飛来し、突っかかる。カシラダカ、タヒバリ、オオジュリンなど。1月3日、ヨシ原でアリスイの声、ベニマシコ♀1。上沼でタシギ、オオバン、コガモ、マガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリなど（鈴木紀雄）。

**羽生市 羽生水郷公園** ◇12月18日、ヨシガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ミコアイサ3、カイツブリ、カンムリカイツブリ3、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、トビ、カワセミ、アリスイ1、コゲラ、アカゲラ♂1、チョウゲンボウ1、モズ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ♂1、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ2、ホオジロ、オオジュリン（森本國夫）。

**久喜市 久喜菖蒲公園** ◇12月19日、オナガガモ、マガモ、カルガモ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、ヨシガモ、コガモ、ミコアイサ、ホシハジロなどカモ9種。ハジロカイツブリ6、カンムリカイツブリ10、オオバン多数、カワセミ、ゴイサギ、コサギ、ジョウビタキ、メジロ、ウグイス、シメ、コゲラ、ハクセキレイ、シジュウカラ、モズなど（長嶋宏之）。

**吉見町 吉見総合運動公園** ◇12月21日、ハヤブサの狩りを始め、ノスリ、トビ、コチヨウゲンボウなどの猛禽4種とシメの20羽士の群れが圧巻だった。他にジョウビタキ、ツグミ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、ウグイス、メジロ、セグロセキレイ、ムクドリ、コジュケイ、ガビチョウなど（長嶋宏之）。

**加須市向古河** ◇12月22日、ノスリ2。コチヨウゲンボウ♀1（下写真）、道路脇の電線に止まっていた。クサシギ1（鈴木 功）。



**さいたま市岩槻区 岩槻文化公園** ◇12月22日、元荒川でカンムリカイツブリ1、ヒドリガモの群れ中にホシハジロ♂1。ヨシ原にベニマシコ♀1、ルリビタキの声など。

1月2日、アカハラが2回出現。シロハラ、ツグミ、アオジ、カシラダカ、ホオジロ、モズ、キジバト。シジュウカラ、メジロ、エナガ、コゲラの混群。シメ、カワラヒワ、ベニマシコ♂1。元荒川でカワウ、ダイサギ、アオサギ、イカルチドリ、タシギ、オオバン30、ハクセキレイ、セグロセキレイなど（鈴木紀雄）。

**さいたま市見沼区膝子** ◇12月22日、電柱と杭にノスリ各1とまる。付近で越冬中（鈴木紀雄）。

**さいたま市見沼区上山口新田付近(53396572)**

◇12月23日、オカヨシガモ♂1 ♀1、ヨシガモ5、ヒドリガモ7、カルガモ3、ハシビロガモ♀1、コガモ16、カイツブリ、キジバト、カワウ4、アオサギ1、バン5、オオバン多数、カワセミ3、コゲラ1、モズ3、シジュウカラ5+、ヒバリ3、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、キセキレイ1、ハクセキレイ5、セグロセキレイ2、カワラヒワ5、シメ2+、ホオジロ4など。1月2日、オカヨシガモ♂1 ♀1、ヨシガモ♂3 ♀2、カルガモ4、ハシビロガモ♀1、コガモ13、カイツブリ2、キジバト、カワウ1、アオサギ2、ダイサギ1、バン3、オオバン多数、オオタカ若鳥1が芝川の上を低高度で飛んだので水鳥が大慌て、カワセミ2、モズ3、シジュウカラ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ♀1、スズメ、ハクセキレイ4、セグロセキレイ2、カワラヒワ13、アオジ♀1など（森本國夫）。

**さいたま市岩槻区高曾根** ◇12月26日、伸びた刈穂の中にケリ4が散在。1羽は嘴が黒っぽく第1回冬羽らしい（鈴木紀雄）。

**川越市 伊佐沼** ◇12月28日、コチドリ1、イカルチドリ6、オジロトウネン1、イソシギ1、ハマシギ15、オオハシシギ2、アオアシシギ1、セイタカシギ3（鈴木 功）。

**さいたま市見沼区 見沼自然公園** ◇12月27日、今冬もトモエガモ♂1が来ていた。他にヒドリガモ、オカヨシガモ、オナガガモ、カルガモ、コガモ、オオバンなど（鈴木紀雄）。

**さいたま市大宮区 大宮第三公園** ◇12月28日、オジロビタキの情報を聞いて出かけた。ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、カワウ、オオタカ若鳥1、コゲラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、オジロビタキ1（ニシオジロビタキ、独特の地鳴きですぐに見つけられた）、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、アオジなど（森本國夫）。

**蓮田市 西城沼公園周辺** ◇12月26日、ヒヨドリが元気い。数えたら47羽いた。他にオナガ8、コサギ1、アオジ1、ハクセキレイ3、ツグミ7など。12月31日、大晦日のプレゼントか？ 2羽のツグミが樗の枝に止まってくれた（下写真）。他にオナガ12、ツグミ5、カケス2、アオジ2、ウグイス地鳴き1、ジョウビタキ♂1、シジュウカラ5など。1月2日、モズ♂♀が追いかっこ。ペアリングが始まったのか？ テリトリーからの追い出しか？ ツグミがヒヨドリに追い回されていた。何か気に入らないことがあったのか？ 他にカケス鳴き声、エナガ6、シジュウカラ4、シロハラ1、アオジ1など（長嶋宏之）。



**蓮田市閩戸 N36.0063 E139.6391** ◇12月29日、校庭の木にクイタダキ4、枝移りをしながら採餌していた（関口明宏）。

**さいたま市見沼区 深作調節池** ◇12月31日 午前11時頃、オオハクチョウ2、車で遊水池のそばを通過中に見つける。秋頃から遊水池の木を伐採し、池を広げる工事 중이다が、年末年始で工事が休みなので飛来したのか（藤原寛治）。

**坂戸市浅羽** ◇1月1日午前8時55分、浅羽ピオトープゲートボール場近くから高麗川を双眼鏡で探鳥していたら見え隠れする川

岸近くの水面に腹部の白の目立つクサシギ1 (下写真)、下流に飛び去る (山岡貞夫)。



**さいたま市岩槻区宮町 久伊豆神社** ◇1月1日、初詣の列に並んでいると上から「ピリリリ…」の声。見上げると、なんとサンショウクイ2が飛んでいた。北進著しいリュウキュウサンショウクイだろうか (鈴木紀雄)。

**さいたま市大宮区下町(53396580)** ◇1月1日午前10時前、自宅マンションのバルコニーにイソヒヨドリ♀が来た。しばらく様子を見ながらから鉢植えのピラカンサの実を2個ほど食べて、手摺で少し休んでから飛び去った。新年早々縁起がいい (森本國夫)。

**久喜市 久喜菖蒲公園** ◇1月1日、カモ9種見られたものの、ヒドリガモを除いた他のカモの絶対数が少ない。カンムリカイツブリ10、ハジロカイツブリ5が嬉しい。先ずカルガモ、マガモ、オナガガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、コガモ、ミコアイサのカモ類。他にカワセミ、オオバン、ジョウビタキ、モズ、オナガ、ツグミ、カワラヒワ、ミヤマガラスなど (長嶋宏之)。

**さいたま市緑区 芝川第一調節池** ◇1月1日、マガモ、コガモ、カルガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ミコアイサ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カイツブリ、オオバン、チュウヒ1、カワウ、アオサギ、アオジ、ベニマシコ、シメ、シロハラ、オオジュリン、ウグイス、モズ、ツグミなど。カモが少ない (藤原寛治)。

**上尾市地頭方～上尾市平方領領家** ◇1月2日、メジロ、キジバト、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ♂5、♀3、スズメ52、

オナガ48、キジ、ダイサギ3、コサギ、アオサギ、カワセミ、ツグミ18、エナガ、カワラヒワ、ホオジロ、モズ7、ハクセキレイ、セグロセキレイ、コゲラ、カルガモ、カワウなど。ムクドリ48の群れの中に全体に白っぽい鳥が混じっていた。声を聞いていると少し鳴き方が違っている。コムドリか (村越百合子)。

**渡良瀬遊水地** ◇1月3日、ハイロチュウヒ♀1、♂2、♂若鳥?1、チュウヒ10の罅入り。コチョウゲンボウ2、飛翔 (鈴木紀雄)。

**草加市柿木町 中川河川敷** ◇1月5日、オオタカ成鳥1 (鈴木 功)。

**越谷市 越谷レイクタウン** ◇1月5日、ハジロカイツブリ1、カンムリカイツブリ8 (鈴木 功)。

**加須市柏戸 (54392534)** ◇1月5日午後、田んぼでタゲリ、トビ、コクマルガラス10±、ミヤマガラス500±、ヒヨドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ (嶋田富夫)。

**川越市 伊佐沼** ◇1月6日、ウミアイサとオオハシシギのうわさを聞いて出かけた。ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、キンクロハジロ、ウミアイサ♂1、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、イカルチドリ、オオハシシギ2、ハマシギ、セグロカモメ、トビ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ1、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ2、カワラヒワなど (森本國夫)。

**上尾市平方領領家** ◇1月7日、夕方犬の散歩中、田んぼにカラスが沢山集まっていた。少しくちばしが白っぽく鳴き方が変わっていたので、自宅に戻り本を見てみるとミヤマガラスだった (村越百合子)。

#### 表紙の写真

#### チドリ目チドリ科チドリ属イカルチドリ

一昨年の7月、若鳥1羽が数羽のコチドリに追われていました。

蟹瀬武男 (さいたま市)



新型コロナウイルス感染防止のため  
7月及び8月の探鳥会も全て中止とします  
代表 山部直喜

● 埼玉事務局から『しらこぼと』だけが届く会員の方々へ

6月号の発送が大幅に遅れましたことにつきまして、深くお詫びしたいと思います。

10ページ「連絡帳」欄にもある通り、新型コロナウイルスの影響により本部からの発信用宛名シールが大幅に遅れたことによります。

特に、HPを利用していない方々へは連絡の方法がなく、ご不便、ご迷惑をかけました。誠に申し訳ございません。

● 7月及び8月の探鳥会も全て中止

(財団)日本野鳥の会から、緊急事態宣言が解除された地域に向け「探鳥会スタッフ通信(メール版)2020年5月・号外5/21号」が届きました。その中の【探鳥会を開催する場合の配慮事項】を右に紹介します。これは、政府が発表した「新型コロナウイルスを想定した新しい生活様式」を参考にしてまとめられています。

上記の通信を受け、5月26~28日にメール交換による役員会を開催しました。その結果、「7月及び8月の探鳥会はすべて中止する」の議案が承認されました。このことは、直ちに当会のホームページでお知らせしました。

7~8月は熱中症にも気を付けなければなりません。例年、梅雨が明ける頃になると、マスク等で連日のように「身の危険を及ぼす暑さです。不要不急の外出は控えてください」と連呼されます。

皆様と一日でも早く、探鳥会でお会いできる日を楽しみにしています。



早朝に身近なところで一人調査

【探鳥会を開催する場合の配慮事項】

※一部省略

- 1 リーダーが不安をかかえたまま実施しない。
- 2 屋外の行事に限る。
- 3 参加者を少人数にする。
- 4 参加者の連絡先を把握する。
- 5 具合の悪いリーダー、感染の疑いのあるリーダーは参加しない。
- 6 参加者にも具合の悪い方の参加を控えていただくように呼び掛ける。
- 7 参加者もリーダーもマスクを着用する。
- 8 人と人との間には、最低1m、できれば2mの間隔を空ける。
- 9 真正面での会話を避け、ハンズフリーマイクを使用するなどして大声での発声を避ける。
- 10 参加者に手洗い、手指のアルコール消毒を行うように呼びかける。
- 11 道具の貸し借り、望遠鏡の共用(一つの望遠鏡を複数の人で見ることをしない)をしないように呼びかける。
- 12 集団での飲食はしない。飲食物の配布はしない。
- 13 車の乗り合わせ、貸し切りバスでの移動は避ける。
- 14 宿泊型のイベントは行わない。
- 15 周囲の方々の目を意識する。

【探鳥会保険について】

探鳥会保険では、病気は補償の対象外です。探鳥会が原因で新型コロナウイルスに感染しても、感染者に対する治療費等の補償はありません。

※p4に「はみ出し行事案内」があります。





# 行事報告

1月18日(土) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地 Young

参加：25(会員10)名 天気：曇時々雨

ヒドリガモ アメリカヒドリ マガモ カルガモ  
オナガガモ コガモ キンクロハジロ ミコアイ  
サ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト  
カワウ アオサギ ダイサギ タシギ ツルシギ  
セグロカモメ ミサゴ トビ チュウヒ ハイイ  
ロチュウヒ ハイタカ ノスリ カワセミ チョ  
ウゲンボウ コチョウゲンボウ モズ ハシボソ  
ガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨド  
リ エナガ メジロ ツグミ ジョウビタキ ス  
ズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ  
カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ  
カシラダカ アオジ オオジュリン (46種) 序  
盤は谷中湖でミコアイサ、カンムリカイツブリな  
どを観察、アシ原に行くまではベニマシコ、ジョ  
ウビタキなど冬の小鳥に出会えた。チュウヒのね  
ぐら入りでは、早々にチュウヒたちが帰ってきた。  
ハイイロチュウヒも複数、飛び回るコチョウゲン  
ボウも多数見られて、大満足。(廣田純平)

1月18日(土) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：22(会員18)名 天気：曇

ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシ  
ビロガモ オナガガモ トモエガモ コガモ キ  
ンクロハジロ ミコアイサ カワアイサ カイツ  
ブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ  
キジバト カワウ アオサギ ダイサギ タゲリ  
セグロカモメ トビ チュウヒ ハイイロチュウ  
ヒ ノスリ コゲラ チョウゲンボウ ハヤブサ  
モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス  
シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ム  
クドリ ツグミ ジョウビタキ セグロセキレイ  
アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジ  
ロ アオジ オオジュリン (46種) まずはミコ  
アイサやカワアイサが楽しませてくれた。猛禽は  
いつものハヤブサやチュウヒに加え、久々にハイ  
イロチュウヒも記録。上空をタゲリの群れが通過  
し、ベニマシコも何度か出てくれた。(佐野和宏)

## 大宮公園を通過する夏鳥

森本國夫(さいたま市)

4月21日朝のこと、大宮公園でセンダイムシクイの声を聞き、早起きが苦手なのに、夏鳥の通過状況を調べることを思いついた。

調査期間は5月10日まで、状況により調査時間に長短はあるが、時間帯は5:30~7:00である。なお、加齢にともなう耳の衰えによりヤブサメの鳴き声は確認できそうにもなく、不本意ながら対象外となった。

結果を下の表に示す。空白は「記録なし」を意味している。数字は、私がさえずりを開けた雄だけの数である。雌やさえずらなかつた雄は含まれないため、通過した夏鳥の実数は調査結果の2倍以上になると考えられる。

月付	天気	メボソムシクイ	エゾムシクイ	センダイムシクイ	コサメビタキ	キビタキ	オオルリ
4/21	晴			1			
4/22	曇					1	
4/23	晴				1	1	
4/25	曇			2		1	
4/26	晴			1		1	
4/27	曇			2		1	
4/28	晴		1	1		2	
4/29	晴		1	1		4	
4/30	晴		1			1	
5/1	晴						
5/2	晴	1	2	2		3	
5/3	晴		1				
5/4	雨		1				
5/5	晴					1	1
5/6	曇			1		2	
5/7	晴			1		1	
5/8	晴					1	
5/9	晴						
5/10	雨						
計		1	7	12	1	20	1

備考：氷川参道で4/27 センダイムシクイ1、5/10 エゾムシクイ1。大宮公園で5/13 メボソムシクイ1、5/25 クロツグミ1、氷川神社で5/27 オオムシクイ1



### ● 6月号の発送が一部遅れています

野鳥の会本部から『野鳥』誌と同封発送する皆さんには、ほぼいつも通りに発送されました。

埼玉事務局から『しらこぼと』のみを発送する皆さんについては、本部機能停止のため、宛名ラベルが、6月に入っても、本部からまだ送られて来ません。大変遅れています。やむなく当会の公式ウェブサイトでそのことをお知らせし、PDF化した『しらこぼと』6月号を同サイトでご覧いただけるようにしました。

6月1日に本部会員室担当者と電話が繋がりが、当会事務局が話を聞いたところ、本部では様々な社会的制約のもとで、6月25日ころを目途に、宛名ラベルを発送するよう、鋭意努力中とのことでした。

6月末ごろに6月号と7月号を同封してお送りすることになりそうです。

申し訳ありません。引き続きご支援をお願いします。

### ● 7月号も 10 ページです。

7月～8月の探鳥会もすべて中止になりました。そのため、今月号もいつもより2ページ少ない 10 ページです。

### ● 6月1日現在の会員数は

後日報告します。

## 活動と予定

### ● 5月の活動

5月1日(金)～3日(日)、メール交換による役員会を開催。「7月18日(土)～19日(日)長野県池の平・軽井沢地探鳥会を中止する」との議案を承認した。

5月2日(土)～7日(木)、メール交換による『しらこぼと』6月号校正作業(相原修一、海老原美夫、長嶋宏之、山部直喜)。

5月26日(火)～28日(木)、メール交換による5月2回目の役員会を開催。「7月および8月の探鳥会はすべて中止する」との議案を承認した。

### ● 7月の予定

本稿執筆時6月初めの段階では、通常本欄でお知らせしている編集部会、校正作業、袋詰め会、役員会などを、事務局に集まって実施する目途が立っていません。

## 編集後記

コロナ禍の中、自粛生活もはや4箇月。何か明るい話題はないかなと思ったらヨーロッパコマドリ来訪のニュース！今回は、残念ながら参考記録になったけれど、千葉にも来ているのだし、埼玉に来てもおかしくない。ちなみに、私はイングランド北部の墓地でお会いしました。可愛かったです。(T.A.)

新型コロナウイルスの影響で遠出ができなかったのも、いつもより大宮公園付近を散歩することが増えた。歩いていけばいいことがあり、大宮公園で突然クロツグミがさえずって、驚いたカラスがスクランブル発進するのが見られたり、オオムシクイが冰川神社の手水舎わきの木で盛んにさえずっていたりということもあった。(森本)

しらこぼと 2020年7月号(第436号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org

編集部への原稿 [yamabezuku@wbsj-saitama.org](mailto:yamabezuku@wbsj-saitama.org) 編集部への野鳥情報 [toridayori@wbsj-saitama.org](mailto:toridayori@wbsj-saitama.org)

住所変更などの連絡は [gyomu@wbsj.org](mailto:gyomu@wbsj.org) または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635

〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断

転載は、かたくお断りします。

印刷 関東図書株式会社